

東京 TS ネットセミナー Vol.6

「依存症と障害」

2022年9月10日（土）に第6回目となるセミナーを「依存症と障害」というテーマで実施しました。今回も会場とオンラインの並行開催となりましたが、会場にも多くの方に足を運んでいただきました。

講師には、精神科医であり、埼玉県立精神医療センター副院長である成瀬暢成先生、八王子ダルク施設長である加藤隆さんをお招きしました。

成瀬先生からは、依存症の診断からその背景への視点、さらには支援者に求められる態度などについて幅広くお話をいただきました。その中でも回復のために必要なこととして、「本音を言えるようになること」つまり「正直な気持ちを安心して話せるようになること」が回復への突破口になる、そのために自助グループが有効であるというお話は、その後の加藤さんのお話にも通ずるものであり、支援する側である私たちも心にとめておくべき言葉だと感じました。

「依存症患者への望ましい対応」についても言及いただきましたが、その内容は特別なものではなく、社会福祉を学ぶものであればすでに学んでいる内容でもありました。しかし、そのあたりまえが支援の現場では容易ないことも往々にしてあります。「依存症の治療の成否は、どの治療を行うかではなく、誰が治療を行うかにかかっています」という言葉の重さを支援に携わるものとして今一度向き合わなければならないと感じることができたものでした。

続いて、加藤さんからは、八王子ダルクの特徴や実践について、かかわりへの想いに触れながらお話いただきました。特にダルクを「何度もやり直しができる、安全安心な場所」と位置付けている点は、私たちがかかわる罪を犯した方をはじめとした社会的に排除されがちな方たちとのかかわりのなかで非常に大切なしてであることをあらためて確認することができました。また、ダルクだけではなく他機関との連携の重要性の指摘もありました。加藤さんのお話は、一貫して薬物依存症者および家族を社会の中で孤立させないという想いを感じることができるとお話でした。成瀬先生のお話にも「依存症は周囲を巻き込む病気」とあるという指摘がありましたが、だからこそ本人だけでなく、家族なども含めて孤立しないような支援が求められるのだと感じました。

休憩をはさみ、質疑応答を行いました。そこでは、家族支援を含めた支援の入口でのかわりなど、講演でお話いただいた内容を実践場面でどのように対応するかなどについて活発な議論となりました。

成瀬先生、加藤さん、貴重なお話をありがとうございました！！